

TOREK 自然農法 ホットニュース

第 190 号 2014. 2. 25

健康な地球に生きる健全な人間の姿を求める「岡田茂吉師」が提唱した「自然農法の原理」に基づき、「無施肥無農薬栽培」を通し、生産、流通、消費者がお互いの現場を理解し合える、安全で豊かな「食」の普及に取り組んでいます。



無施肥無農薬野菜の看板 栃木県 五十嵐正吾

1月14日、鎌ヶ谷頒布会へ送る野菜の準備を行い、夕方宅急便で発送し、ほっとしていたとき、Oさんが門柱の「無施肥無農薬野菜」の看板を見て訪ねてきました。この看板は5年ほど前から出していますが、今までは何の反響もなかったのです。Oさんは、ある自然農法関連の本に感銘し、自然農法の野菜を食べてみたいと思ったそうです。我が家では農薬や肥料も使わずにお米と野菜を作っていることをお伝えし、頒布会へ出した残りの野菜をお渡しし、試しに食べてみてもらうことにしました。一週間後、「野菜が美味しかったので、お米と野菜を購入したい」とOさんが連絡を下さり、お分けしました。

私の家では26年前より自然農法の畑を始め、9年前より米作りも始めました。昨年は米の収量が今までで一番多く、反6.3俵取れました。

それまでずっと慣行農法の方から「鶏ふんをちょっと入れればもっと取れる」と言われてきましたが、逆に「何か肥料を入れたの？」と驚かれるほどでした。畑のほうは夏場はここ数年猛暑で、今までは自宅からタンクに水を入れて運んでいたのですが、昨年は近所の方より水道をお借りでき、直接蛇口からホースで野菜に水をあげられるようになり、里芋は5倍、ネギとごぼうが3倍多く取れました。

昨年10月には、中野で開催された「自然栽培フェア」に参加し、お米と野菜を販売することができました。台風なみの強風の中でも多くの方が来場し、自然農法の作物をこんなにもたくさんの方が求めているのだと分かり、本当にうれしくなりました。このような場で販売できたのも、毎月鎌ヶ谷頒布会で販売させていただき、それが自然農法を続ける糧となってきたからです。

自然農法といっても解釈の範囲は広く、有機野菜でも自然栽培として販売されていたり、出版物も多く、鶏ふん使用の記述がある本もあるそうですが、我が家は岡田茂吉師の本農法、真の自然農法、無施肥無農薬栽培を実践し、お伝えしたいと思っています。



2013年 自然農法稲作 報告 ② 長野県 堀 政則

続きましてもう一つは、昨年10月下旬から始まった、長野県松本市にある「井上百貨店」での自然米販売について報告します。この百貨店とのご縁は、松本市在住の宮澤ご夫妻が取り組むお菓子工房で、品質の高い安全な牛乳を仕入れる働きかけをしたところから始まったとのこと。その食品売り場の担当者との交流の中、以前から自然農法、頒布会等のお知らせをされていたそうです。

宮澤さんが、一昨年のコンテスト(米・食味分析鑑定コンクール国際大会)での金賞の話も合わせて自然米を渡したところ、担当者から社長へとお米が渡り、そこから自然米を仕入れるようにとの命が食品担当係長に降り、自然米の情報が何もない中、担当係長は対応に迫られ、一昨年の暮れ近くに私のほうに電話が入ってきました。係長が自然米の基本的内容をつかみかねている状況もよく分かり、とにかく年明けに宮澤さんと共にお会いする約束をして、昨年1月に伺いました。

「とにかくすぐに出荷してもらえないか」と要望する姿から、自分たちの企画から上がった商品ではなく、突如として降りかかったトップダウンの話であることによる係長のアタフタした様子を感じとりながらも、私たちはおもむろに野菜の腐敗試験のピンを取り出し、自然農法のお知らせをしました。

私としても、以前から自然米をオープンマーケットに出荷することは何より夢であり、農閑期には首



都圏デパート、販売店への営業に回って勉強し、いつかはそうありたいと願っていました。それにより、真の自然農法の商品がどれだけ多くの方の目に触れるか分かりません。しかし営業に回れば回るほど、一方で果たして一般的な売り場に耐えるだけの商品性となっているのか、勿論何よりも自然米としての高い気持ちはある中で、そうゆう場に出られる段階に届いているかどうか、という気持ちも私の中にありました。それを後押ししてくれたのが、一昨年の金賞受賞であり、また商品ラベルや名刺のデザイン作成で援護をしてくださる方も現われ、そこに頂いた今回の話に、いよいよもって意もかたまり、やるからには、それに

向けて気持ちを込めて米を作らせていただきたいという思いが膨らみ、担当者には、もうあと1年待っていただくよう説得し、今回の新米からの出荷とさせていただきます。

そして10月の収穫を迎え、その月の下旬に初出荷しました。11月には8日に宮澤弥生さんと一緒に試食を準備して、初めて食品売り場に立ちました。試食とお知らせに、二人ともやや緊張の中、あつという間に時間が過ぎた感覚で、まる1日自然農法のお知らせができた体験に興奮しました。宮澤さんご主人、三宮さんも様子を見に来てくださり、初めての「自然農法お知らせ試食会」を無事終了させていただきました。試食した方の人数もほぼ70名、宮澤ご夫妻の手作りの自然米お知らせパンフレットも皆さまにお渡しできました。多くの人と出会い、いろいろと思い、考えることもたくさんありますが、何より有り難いことは、1日自由に立たせていただけ、試食のお米を食べていただけ、かつまた自然農法のお話をお伝えでき、農産展、頒布会のお誘いができる場を許されたということでした。

お知らせの中で、弥生さんが言った一言を通して確信を持ちました。小さなお子様を抱いた若いお母さんに「食欲のないとき、お子様の体調が悪くなったとき、いつでもここに自然米を置いてありますので、安心していらしてください」とお伝えしていました。それを聞き、そうなんだ、ここに来ればいつでも自然米が置かれている、私たちはそういう場を許されたのだ、このことが何より有り難いことなんだと感謝いたしました。その後も「自然農法お知らせ試食会」の許可を得て、継続し行っています。宮澤ご夫妻、松本のTOREKの方々と共に、これからもより良いお知らせができるよう話を続けております。

そしてこの販売はもう一つ、今後の生産現場での普及にどれだけ力になるか分かりません。規模は小さくとも、肥料を使わないでお米の生産を続けている、美味しいとの評価も頂いている、百貨店の中で商品のラインナップに自然米として並んでいるということが、生産者に普及していくなかで、どれだけ力になるか分かりません。

一昨年から昨年にかけて、まったく新しいことが始まり出しました。新たに許された自然農法普及の場を大切に、今後も真の自然農法の発展に取り組んでいきたいと思えます。

高熱が翌日には回復！ 千葉県 針貝和歌子

1月23日朝、起きると寒気がして、だるかったけど、学校に行きました。しかし寒気はとまらず、保健室に行くと、38.6度の熱があり、母といっしょに家に帰りました。寝たら食欲も出てきて、こんなに熱があるのに、自然米と自然農法の大豆の味噌汁と、自然米のヌカのヌカ漬けをスルスルと食べました。

すると翌朝、体調も良くなり、元気に学校に行きました。友達や先生は私の早い回復に驚きました。自然農法の作物は市販のものとは違うおいしさを感じていたけど、体がつかないときでも食べられ、元気になれることがすごいなと思いました。



お知らせ 自然農法頒布会 3月18日(火) 鎌ヶ谷会場 11:00~ (売り切れ次第終了)

無施肥無農薬栽培物の販売予定 3月3日 於: 伊都能売会館

生産者の方々が直接販売されます。 東京都八王子市長房町57 042-665-6369

- 市川生産グループ: 煎茶、ほうじ茶、みかんジュース ● 中島農園: ジャガイモ、小豆、高原豆、梅干、ﾌﾞﾗﾝｼﾞｯﾂ
- きじま平自然農産: 白米(農林48号)、米粉、きな粉、そば粉、納豆、甘納豆
- 長柄山自然農園: 卵、ダイコン、丸鶏 ● 菜園金野: 京菜
- ジョリフィユ: ひなまつりクッキー、カボチャのモンブラン、カスタードプリンほか

お問い合わせ先: 編集部 針貝 FAX: 03-3369-3324 e-mail: naturefarming@torek.jp
TOREK活動のホームページもご覧ください。 http://www.torek.jp